

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090200169		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ松本寿		
所在地	長野県松本市寿北6-29-15		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090200169&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来ないことをさりげなくサポートし、利用者の思い通りに沿ったサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な住宅街に位置し、近隣には公園やスーパーもあり、周囲に望める山々より季節感が味わえる環境の中に設置されている。入居者は季節感や生活感を味わいながら日常の散歩や買い物に出かけ、地域住民との交流が図られている。新任管理者は福祉の現場経験と人柄より抜擢され、職員の信頼を得てホームの運営に当たられている。「人の話を傾聴することに7割」を心情にして、入居者やご家族・職員・関係者との人間関係の構築に努められ、サービスの質の確保と向上のため取り組まれている。前任者からの終末期に対する対応指針を引き継ぎ、入居者やご家族との話し合いを持たれ安心と安全に繋がっている。職員の優しい寄り添いの支援を得て入居者は大変明るく穏やかに過ごされている。

ユニット名(かすみ草)

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(さくら)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして事業所理念を作り上げている。ユニット会議を定期的に行き、その人らしさを念頭に置きつねに話合っている。	母体の経営理念とは別に、ホーム独自の認知症ケア理念が作成され、毎月1回開催される各ユニット会議に管理者が参加し、理念の実践に向けた話し合いが行われ、全職員で共有化が図られている。	入居者・ご家族・ホームに訪問される方々へもご理解いただけるよう、パンフレットやホーム内の掲示に理念が明確に示されることが望まれる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の協力のもと避難訓練を行ったり、行事への参加にも呼び掛け時には地域の行事にも参加をして交流を持てるように努めている。	地域住民の一員として町会に加入し、地域の行事の焼き芋大会への参加や地域防災に職員が参加されている。またホームへ地域の方々を招き、食事会・運動会・夏祭り等を開催して地域との交流に努められている。	今後更に地域の保育園や小中学生等の交流に向けた取り組みにより、保育園・学校・地域の行事に積極的に参加されることが望まれる。なお入居者の心の高揚が子供たちの育成に繋がるなど双方向の良い関係が築かれることを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根ざした事業所としての取り組みに努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議、家族会などで評価への取り組み状況を報告し意見をもらいサービスの向上に努めている。	運営推進会議は入居者・ご家族・オーナー・民生委員・地域包括支援センター・ホーム関係者等の参加により定期的に行われている。ホームより現状説明や避難訓練実施報告・行事予定等の報告をして、参加者より活発な意見や提案が出され、避難方法について継続検討がされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当行政との意見交換などアドバイスをもらいながら取り組んでいる。	ホーム内では解決できない課題について地域包括支援センターにつなげ、協力をいただきながら課題解決に向け取り組まれている。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開き身体拘束の対象になる行為が何かを学び、正しく理解をしたうえで身体拘束を行わないケアを実践できるよう努めている。	身体拘束をしないケアの実践に向け、職員全員で取組まれており、日頃入居者の状態を把握し安全で自由な暮らしが営めるよう支援し、常にケアの振り返りに努められている。なお母体法人より「拘束はしていないですか等」書面にて通達が出されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き虐待に繋がる言動は何か...等スタッフ全員で学んでいる。そして身体的、精神的に異変をかんじた場合すぐに上司に報告・連絡・相談が出来る関係作りにも努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階でユニット内の入居者、身元引受人から権利擁護に関する対象者がいないこともあり知識不足な面がある。勉強会の題材にして学ぶ必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等では十分な時間を設け説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を言い易い関係作りに努め、また意見箱の設置を行っている。	ご家族訪問時には気軽に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努められている。なお家族会及び運営推進会議において、ご家族からの質疑応答の場が設けられ、出された要望がホームの運営に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議等を利用し職員から運営に関する意見や提案を聞く機会を設け、また反映させている。	ホーム会議が定期的(月1回)に開かれ、管理者は職員と同じ目線にたって、職員が意見や提案を出しやすいよう気配りをされている。出された意見や提案は検討し反映されている。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各自が向上心を持って働けるようにコミュニケーションを密にとりながら職場環境・条件の整備に努めている。		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	個々のケアの実際と力量に合わせた研修や勉強会等でトレーニングを進めている。		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修等で同業者と交流する機会を作り、それを基に質の高いサービスの提供が出来るように取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	何気ない会話の中から本人の不安や悩みを汲み取り、それらを取り除けるような関係づくりに努めている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族との連絡を密にとったり面会時には話をする時間をとったりして、何でも話せる関係づくりに努めている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	何を必要としているのか見極め、適したサービスの提供に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは積極的に依頼し、常に共同生活を意識したケアに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって家族が一番であることを理解し、助け合える関係を気付いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントを十分にとり本人の生きてきた過程を大切にしながら支援を行うことに努めている。	入居者の生活暦の中より、地域社会との関係性の把握に努められている。馴染みの美容院への支援やご家族と出かけ、お茶を楽しまれていることを伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの意向を汲み取り、職員が間に入って柔軟なケアに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人・家族の経過をフォローできるように相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	絶えず利用者に寄り添う姿勢を大事にし、意向を汲み取るよう務めている。	職員は入居者と過ごす時間(寄り添いのケア)を通して入居者一人ひとりの思いや希望の把握に努められている。得られた入居者の思いや意向をスタッフノートに書き留め、職員間で共有してサービス提供に当たられている。	高齢化や身体状況の重度化により、入居者が言葉で十分意思表示が出来ない場合であっても、表情や全身の反応を注意深く見極め、希望等の把握に努められるよう期待する。

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して把握することに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式や職員間での情報交換で現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を汲み取り、カンファレンス等で出た意見やアイデアを反映させて介護計画を作成している。	日頃の関わりの中やご家族訪問時に思いや意向を伺い、現場スタッフ全員でカンファレンスを行い、入居者主体の暮らしに反映した介護計画が作成されている。期間にとられず状態に即して見直しも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で常に情報の共有を意識し、個別記録への記入・申し送りをして実践や介護記録の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あらゆるニーズにあらゆる柔軟な支援を行えるよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域の中で利用者一人ひとりが心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者やご家族より、納得が得られたかかりつけ医への受診支援が行われている。なお協力医による定期的な訪問診療を受けられており、ホームとの関係性も築かれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と密に連携をとり、個々の利用者が適切な受信や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め、日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向や家族との話し合いを行い、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向け入居者やご家族の意向を踏まえ医師、訪問看護・職員が連携を図り、入居者が安心して終末期を過していけるよう取組まれている。なおスタッフの質の向上に努められている。	重度化に伴う意思確認書を作成し、入居者の状態変化に応じた随時の意思の確認をしながらの支援が望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて全職員は応急手当や初期訓練を定期的に行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて地域住民にも協力を得ながら避難訓練の実施を行い、すべての職員が避難方法を身につけている。	年2回災害時に備え、地域住民の協力を得ながら入居者も参加しての避難訓練が実施されている。職員全員が避難場所・避難方法を周知されている。今後夜間を想定した訓練も予定されている。	入居者には高齢化に伴い重度化傾向にあり、昼夜を問わず職員のみでの誘導には限界が見られる。日頃より近隣住民よりの協力体制が得られるよう話し合い、具体的な支援体制を築かれるよう期待する。

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の尊厳を尊重し、それに反しない言葉かけや対応をしている。	入居者との日常の関わりの中で、入居者一人ひとりに合わせた対応に気配りをし、言葉掛けや対応に配慮されている。「自分でされて嫌なことはしない。自分の親のような気持ちでの対応を」との姿勢を管理者より伺った。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定権は常に本人にあるようにし、本人のペースに合わせ思いを引き出せるような支援に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、日々どのように過ごしたいか希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれの決定権は本人にあるように支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共同生活の場である事を意識し、出来ることを無理のないよう支援し一緒に行っている。	食事に關する一連の作業の中で、その日の入居者の状況と力量に合わせ、職員の見守りの支援を得てお話をしながら楽しく行っている。(玉ねぎ・ジャガイモの皮むきや味付け・食後の下膳等)	今後入居者と職員が共に同じ食卓を囲み同じものを食べることにより、入居者の食への理解や良い人間関係づくりにも繋がり、入居者にとっても楽しい食事になると思われる。入居者と一緒に楽しむことのできる環境づくりへの配慮が望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の習慣に応じた栄養バランス、水分量等を一日を通じて確保できるように支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄のパターンを把握するよう努め、習慣を活かし排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、気持ちよい排泄に向けた支援に努められている	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を理解し、便秘気味の利用者には食物繊維の豊富な食材や乳製品を提供するなど工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日その時に希望に沿ったタイミングで入浴できるように支援している。	入居者の希望にそった支援に努められている。(夜間8時までは可能)なお入浴を拒む入居者には、無理強いすることなく言葉掛けや対応に工夫をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬について把握し適切な服薬の支援に努め、利用者の体調の変化にも気を配っている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式シートを活かし、喜びや張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って戸外に出かけられるよう支援に努め、普段は行けないような場所でも家族と話し合い出掛けられるように支援している。	入居者の希望にそって散歩(公園・ホーム周辺)や近隣スーパーへの買い物に出かけている。時にはご家族とお茶を飲みに出かけられるよう支援も行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりは事務所内の金庫となっているが本人の希望や力に応じて使用できるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けをし、その人にとってどのようなものが不快なものかを把握するように努めている。	廊下や居間には季節に合わせた飾りつけがされ、台所からは美味しそうな食べ物の匂いが漂い、季節感や生活感が味わえる家庭的な雰囲気の中、入居者は思い思いの場所でくつろいでいた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思い、好きな場所で過ごせるように本人の意向を聞いたり席の場所を工夫している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に生活していた居住スペースに出来るだけ近づくように馴染みの家具を使用し、配置に工夫している。	入居者が思い思いの使い慣れた生活用品(タンス・衣装ケース・テレビ・ベット等)や家族写真などを持ち込まれ、入居者一人ひとりの居心地の良い居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に留意し、出来ることが維持できるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の立場になり不安な気持ちや現実を理解するケアをしていくという理念を全職員で共有し近隣住民に行事等の参加促しを呼び掛け地域密着型としての実践につなげている。	母体の経営理念とは別に、ホーム独自の認知症ケア理念が作成され、毎月1回開催される各ユニット会議に管理者が参加し、理念の実践に向けた話し合いが行われ、全職員で共有化が図られている。	入居者・ご家族・ホームに訪問される方々へもご理解いただけるよう、パンフレットやホーム内の掲示に理念が明確に示されることが望まれる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と近隣住民がつながりを持てるように行事への参加を呼び掛け交流が持てるように努めている。	地域住民の一員として町会に加入し、地域の行事の焼き芋大会への参加や地域防災に職員が参加されている。またホームへ地域の方々を招き、食事会・運動会・夏祭り等を開催して地域との交流に努められている。	今後更に地域の保育園や小中学生等の交流に向けた取り組みにより、保育園・学校・地域の行事に積極的に参加されることが望まれる。なお入居者の心の高揚が子供たちの育成に繋がるなど双方向の良い関係が築かれることを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根差した事業所としての取り組みに努め行事等で利用者との交流を持ちながら認知症を理解してもらえよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な意見を交わしながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は入居者・ご家族・オーナー・民生委員・地域包括支援センター・ホーム関係者等の参加により定期的開催されている。ホームより現状説明や避難訓練実施報告・行事予定等の報告をして、参加者より活発な意見や提案が出され、避難方法について継続検討がされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当行政との意見交換やアドバイスをもらいながら協力関係が築けるように取り組んでいる。	ホーム内では解決できない課題について地域包括支援センターにつなげ、協力をいただきながら課題解決に向け取り組まれている。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を正しく理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践に向け、職員全員で取組まれており、日頃入居者の状態を把握し安全で自由な暮らしが営めるよう支援し、常にケアの振り返りに努められている。なお母体法人より「拘束はしていないですか等」書面にて通達が出されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等で学ぶ機会を設け防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識として不足な面もあるので勉強会を開催し活用できるように努めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問・質問があれば十分な説明を行い理解・納得が出来るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見や要望が言える環境・関係づくりを行い運営に反映させている。	ご家族訪問時には気軽に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努められている。なお家族会及び運営推進会議において、ご家族からの質疑応答の場が設けられ、出された要望がホームの運営に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見交換や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。	ホーム会議が定期的(月1回)に開かれ、管理者は職員と同じ目線にたって、職員が意見や提案を出しやすいよう気配りをされている。出された意見や提案は検討し反映されている。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員からの意見を聞き、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一人ひとりのケアの実際と力量を把握し研修や勉強会を通してトレーニングしていくことを進めている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と交流する機会を作り勉強会などの活動を通じてサービスの質の向上に努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>困っていることや不安に思っていることには耳を傾け安心して生活できるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時や連絡を取って要望等に耳を傾け信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その時その時に必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に同じ時間を過ごすという関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の立場を考えて相談しながら本人を支えていく関係づくりを築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの本人と家族との関係を理解し、より良い関係になるような支援に努めている。	入居者の生活暦の中より、地域社会との関係性の把握に努められている。馴染みの美容院への支援やご家族と出かけ、お茶を楽しまれていることを伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い支え合える共同生活が送れるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添う姿勢を大切にし本人本位の暮らしの提供に努めている。	職員は入居者と過す時間(寄り添いのケア)を通して入居者一人ひとりの思いや希望の把握に努められている。得られた入居者の思いや意向をスタッフノートに書き留め、職員間で共有してサービス提供に当たられている。	高齢化や身体状況の重度化により、入居者が言葉で十分意思表示が出来ない場合であっても、表情や全身の反応を注意深く見極め、希望等の把握に努められるよう期待する。

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用して現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にかンファレンスを行い介護計画を作成している。	日頃の関わりの中やご家族訪問時に思いや意向を伺い、現場スタッフ全員でカンファレンスを行い、入居者主体の暮らしに反映した介護計画が作成されている。期間にとられず状態に即して見直しも行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に暮らしの様子を記載し、職員間で常に情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるよう、その都度カンファレンスを行い柔軟な支援やサービスの提供に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、地域の中で生き生きとした暮らしを楽しむことができるよう行事等を通して支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援している。	入居者やご家族より、納得が得られたかかりつけ医への受診支援が行われている。なお協力医による定期的な訪問診療を受けられており、ホームとの関係性も築かれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月4回の訪問看護で看護師に相談・報告を行い適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行い日頃から病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と十分に話し合いチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向け入居者やご家族の意向を踏まえ医師、訪問看護・職員が連携を図り、入居者が安心して終末期を過していけるよう取組まれている。なおスタッフの質の向上に努められている。	重度化に伴う意思確認書を作成し、入居者の状態変化に応じた随時の意思の確認をしながらの支援が望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変や事故発生時に備えて定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて近隣住民とともに避難訓練を行い協力体制を築いている。	年2回災害時に備え、地域住民の協力を得ながら入居者も参加しての避難訓練が実施されている。職員全員が避難場所・避難方法を周知されている。今後夜間を想定した訓練も予定されている。	入居者には高齢化に伴い重度化傾向にあり、昼夜を問わず職員のみでの誘導には限界が見られる。日頃より近隣住民よりの協力体制が得られるよう話し合い、具体的な支援体制を築かれるよう期待する。

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重して言葉かけや対応を行っている。	入居者との日常の関わりの中で、入居者一人ひとりに合わせた対応に気配りをし、言葉掛けや対応に配慮されている。「自分でされて嫌なことはしない。自分の親のような気持ちでの対応を」との姿勢を管理者より伺った。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切に自己決定出来るように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて一日一日を過ごせるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを念頭におき支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下拵えや後片付けを一緒に行っている。	食事に関する一連の作業の中で、その日の入居者の状況と力量に合わせ、職員の見守りの支援を得てお話をしながら楽しく行っている。(玉ねぎ・ジャガイモの皮むきや味付け・食後の下膳等)	今後入居者と職員が共に同じ食卓を囲み同じものを食べることにより、入居者の食への理解や良い人間関係づくりにも繋がり、入居者にとっても楽しい食事になると思われる。入居者と一緒に楽しむことのできる環境づくりへの配慮が望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣に応じた栄養のバランス、水分量・食事量に配慮しながら支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、気持ちよい排泄に向けた支援に努められている	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行ったり食物繊維が摂れる食事の工夫をして便秘の予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に合わせて入浴できるように曜日や時間帯は決めずに支援している。	入居者の希望にそった支援に努められている。(夜間8時まででは可能)なお入浴を拒む入居者には、無理強いすることなく言葉掛けや対応に工夫をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて一人ひとりが安眠・休息できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を全ての職員で理解し、利用者の症状の変化の確認に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ることを役割として張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって職員と一緒に戸外に出かける支援を行っている。また、家族にも協力を得ている。	入居者の希望にそって散歩(公園・ホーム周辺)や近隣スーパーへの買い物に出かけている。時にはご家族とお茶を飲みに出かけられるよう支援も行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所が行っているが希望時には使用できるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の対応や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度にも配慮し、季節感のある飾り付けを採り入れる工夫をしている。	廊下や居間には季節に合わせた飾りつけがされ、台所からは美味しそうな食べ物の匂いが漂い、季節感や生活感が味わえる家庭的な雰囲気の中、入居者は思い思いの場所でくつろいでいた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるような空間づくりができるように支援している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ松本寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら慣れ親しんだ家具類を使用してもらっている。	入居者が思い思いの使い慣れた生活用品(タンス・衣装ケース・テレビ・ベット等)や家族写真などを持ち込まれ、入居者一人ひとりの居心地の良い居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを積極的に行ってもらい職員はそれが安全に行えるようにサポートする工夫を行っている。		